

# 研究力強化への処方箋を 実効性あるものとするために

## 趣旨説明

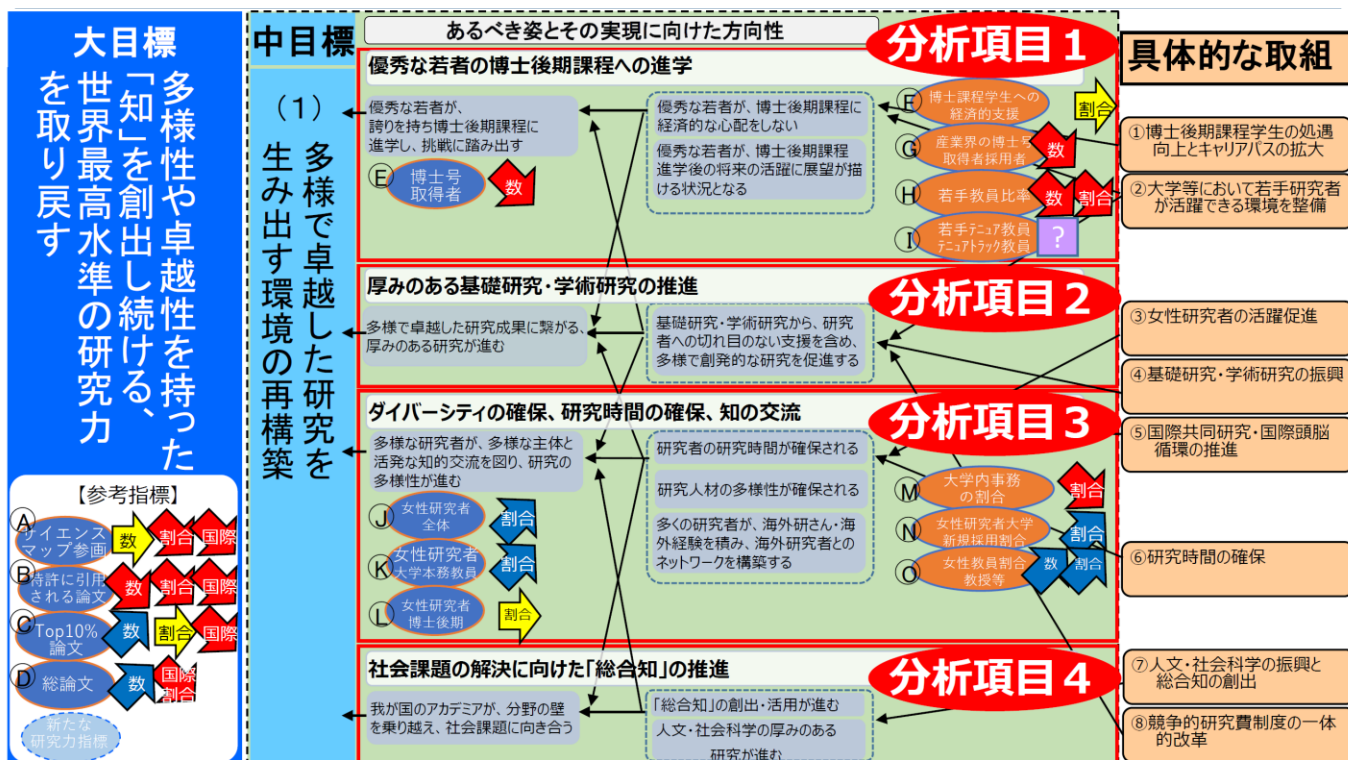
林 隆之  
(政策研究大学院大学)

# 研究力向上へ向けた政策展開

- 研究力低下問題は既に第5期基本計画でも（その前から）指摘されてきた。
  - 残念ながら改善成果は十分に得られてこなかった（論文数の国際ランクはさらに低下。40歳未満の本務教員割合も低下）。
- 第6期基本計画では、複数の施策・事業群を一体化した総合的な政策展開。
  - 研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ
    - 「次世代研究者挑戦的研究プログラム」「大学フェロシップ創設事業」等による博士後期課程学生の財政支援
    - 「創発的研究支援事業」等による優れた若手研究者支援
    - その他にも様々な既存・拡充事業（バイアウト、URA質保証、施設・設備の共用、、、）
  - 10兆円規模の大学ファンド
  - 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ

# 政策の進捗・効果のモニタリング

- CSTIでは評価専門調査会を活用して、基本計画の進捗や効果を確認していく予定
  - 政策パッケージや分野別戦略のフォローアップの結果を踏まえて検討していく予定（第142回調査会資料より）。
    - 議論に必要なエビデンス（=政策の有効性に関する実証研究）が必要になる（べき）。



# 学術・大学側からの検討

- 日本学術会議でも改めて、学術の立場（研究現場の当事者の立場）から5年程度をかけて研究力低下問題を議論
  - モニタリング等でも、各分野・セクター／大学種別の実態情報は、日本学術会議から上がってくるであろう。

## 我が国の学術政策と研究力に関する学術フォーラム

— 我が国の研究力の現状とその要因を探る —

日時／2021年12月11日(土) 10:00～17:45  
場所／オンラインによる開催

●お申込み／日本学術会議ウェブサイト  
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

●参加費／無料

主催 日本学術会議

企画 課題別委員会「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」



◇世紀に入ってから、日本の学術の国際競争力の後退が顕著に表れている。特に理工学工学系や生命科学分野に代表される自然科学分野においては、基礎科学だけでなくその応用技術分野においても顕著である。当該分野の出版総論文数やトップ1%論文数も低迷しており、ほとんどの統計的指標が我が国の学術・研究力の後退を示している。一方、我が国では1990年代初頭から、国立大学の大学院重点化や法人化など、教育研究機関の「改革」が次々に実施されるとともに、CSTI創設をはじめとする科学技術の振興に関わる政策も大きく変化した。これまで科学技術立国を目指すための様々な政策が実施されてきたにもかかわらず、この凋落傾向は改善されなばかりか、むしろ近年は加速傾向にある。この深刻な学術・研究力の後退の問題について、これまで専門家や批評家、各分野や関係

機関から様々な解析や要因の指摘がなされてきた。日本学術会議においては期を超えて長期的に取り組むべき重要課題と考え、その要因を科学的に解明して将来の発展に繋がる途を探ることを目的として「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」を発足させたところである。この委員会のキックオフ活動として、これまで発出された様々な意見を総括するとともに、多様な視点から将来の学術の発展に向けた論議を進めるための学術フォーラムの開催を企画した。これにより日本学術会議の新たな活動を周知するとともに、この重要な問題に関する幅広い議論の活性化を目指している。また、日本学術会議の会員・連携会員を対象とする意見聴取のためのアンケート調査を並行して実施する予定であり、これに資する最新情報の共有を図ることも目的としている。

### Time schedule

10:00～10:05	会長挨拶	横田隆章(会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)
10:05～10:15	開会挨拶・趣旨説明	山口周(第三部会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部特任教授)
【午前の部】セッション1：データから見た我が国の研究力の現状 司会／西山慶彦(第一部会員、京都大学経済研究所教授)		
10:15～11:15	日本の科学研究の現状：科学技術・学術政策研究所の調査研究から	伊神正貴(科学技術・学術政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター長)
11:15～12:00	科学技術・イノベーション政策史からの視点：日欧比較	藤崎さや香(連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授)
12:00～13:10	休憩	
【午後の部】セッション2：現在の状況の要因を探る 司会／佐々木 裕之(第二部会員、九州大学 生体防衛医学研究所教授、高等研究院・研究院長)		
13:10～14:10	わが国の研究力低下の要因と復活に向けた方策	豊田長康(鈴鹿医療科学大学学長)
14:10～14:55	日本の研究力向上に向けた制度的課題	林隆之(連携会員、政策研究大学院大学教授)
14:55～15:40	科学における国際的な知名度を得るためには何が必要か	川合真紀(連携会員、自然科学研究機構分子科学研究所長)
15:40～15:55	休憩	
セッション3：パネルディスカッション		
15:55～17:25	モデレータ：元村有希子(毎日新聞論説副委員長) パネリスト(予定)：河村小百合(株式会社日本総合研究所調査部主席研究員)、江村克己(連携会員、日本電気株式会社 NEC フェロー)、岸村蘭広(連携会員、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授)、伊神正貴(前掲)、藤崎さや香(前掲)、川合真紀(前掲)、豊田長康(前掲)、林隆之(前掲)	
17:25～17:40	総括および今後の活動について	山口周(前掲)
17:40～17:45	閉会挨拶	西山慶彦(前掲)

# STI政策研究者は何を提示できるか

---

- STI政策研究者が何を提示できるのか
  - これまでもNISTEPをはじめとして行政府・資金配分機関のシンクタンクは、政策立案に必要なデータは提示してきた。
  - より深い構造的検討や実証的分析が、さらに求められるのではないか。
    - ▶ 本当の課題は何か（制度的・文化的前提を置かない省察）
    - ▶ どのような政策・施策がその課題を解決しうるのか・そのメカニズムは何か
    - ▶ いかにかそれを実証しうるか

# ご報告者

---

中堅・若手の研究者の方々にご登壇をお願いした。

1. 長根（齋藤）裕美  
千葉大学大学院社会科学研究院 教授
2. 福本江利子  
広島大学大学院人間社会科学研究科 特任助教
3. 小泉秀人  
一橋大学イノベーション研究センター 特任講師
4. 小泉周  
自然科学研究機構 特任教授

# セッションの流れ

---

- 講演者から各10分程度のご報告
  - 質問がある場合は講演中にQ&Aに記入してください。
  
- ディスカッション 35分

# ディスカッション



# 研究力強化への処方箋を実効性あるものとするために、どうすればよいか

---

- いま行政府（あるいは大学等でも）に提言するとすれば何か。
  - 第6期計画の政策群で改善が期待できると思うか？
    - ▶ 現時点で不十分な施策・事業、あるいはそれ以外の要素があるか？  
(そもそも「研究力低下」という問題設定自体が正しいか)
  - エビデンスに基づく政策検討のありかたはどうあるべきか？
    - ▶ 研究者からみて「確実な」エビデンスが作れる？ そうでない場合の体制のあり方？